

COST
DOWN

3

コスト削減の代名詞「ひかり電話」を使い倒す

PBX / ビジネスホンディーラーにとっては、通信コスト削減策の“代名詞”的存在ともなっているIP電話サービス。ほとんどのPBX / ビジネスホンが何らかのIP電話サービスに対応している現在、やはりこれをリプレイス提案に使わない手はないだろう。

ユーザー企業が電話、FAX、インターネットを異なる回線で使用している場合は、この3つを1つのブロードバンド回線にまとめ、IP電話サービスを導入することで、大きなコスト削減効果が見込める。アクセス回線にNTT東西の「フレッツ 光ネクスト」、IP電話サービスに「ひかり電話オフィスタイプ」を導入した場合を例に、その効果を計ってみよう。

図表1-4に、変更前と変更後の月額基本料の差を示した。電話用にINSネット64を用い(2ch)、FAX用にアナログ回線、インターネット用にADSLを利用していた小規模オフィスが前述の環境に変えることで、そのトータルコストは月額で5586円、年間にして6万7032円も固定費が削減できることになる。

なお、Bフレッツでひかり電話オフィスタイプを利用する場合に必要な、「ひかり電話拡張オプション」(月額1155円)も、光ネクストでは不要になり、ひかり電話のコスト削減効果はより高まっていると言えるだろう。

また、効果はこれだけに留まらず、通話料金の削減も見逃せない。全国一律3分8.4円で通話できるため、

市外・県外通話の多い事業所であれば、基本料以上の効果も見込めるはずだ。

「0120」も断然おトクに

ひかり電話のオプションサービスにも注目すべきものがある。恩恵を受けられる業種・業態は限られるものの、「0120」「0800」番号のユーザーにぜひオススメしたいのが、ひかり電話版のフリーダイヤルサービス「フリーアクセス ひかりワイド」だ。

加入電話 / INSネット / ひかり電話から全国一律3分8.4円で着信でき

るこのサービス。図表1-5に示した通り、NTTコミュニケーションズやKDDI、ソフトバンクテレコムが提供する同種のサービスに比べ、圧倒的なコストパフォーマンスを誇っている。NTTコムフリーダイヤルサービスと比較すると、通話料は、100km超の県間通話の場合は10分の1、携帯電話からの着信時でも2分の1以下になる。

すでに「0120」「0800」番号を利用している場合は番号ポータビリティも可能だ。フリーダイヤルユーザーならば、「フレッツ+ひかり電話」に変えるだけで、劇的なコスト削減を実現することも可能だろう。

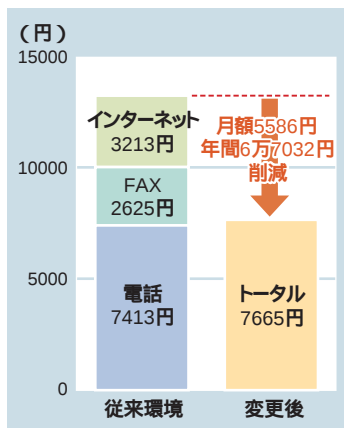
図表1-4 ひかり電話オフィスタイプ導入によるコスト削減効果

●従来環境(電話:2回線、FAX+インターネット:1回線)

種別	単価	利用料	月額基本料
INSネット64	¥3,707	2	¥7,413
アナログ(FAX用)	¥2,625	1	¥2,625
フレッツ・ADSLモア	¥3,213	1	¥3,213
月額基本料合計			¥13,251

●電話・FAX・インターネットをフレッツ光ネクストに統合

種別	単価	利用料	月額基本料
フレッツ光ネクスト	¥5,460	1	¥5,460
ひかり電話オフィスタイプ	¥1,365	1	¥1,365
追加チャネル	¥420	2	¥840
追加番号	¥105	1	¥105
月額基本料合計			¥7,665



図表1-5 主な着信者課金サービスの通話料金比較

(3分間の通話料金)

発信元		NTTコム フリーダイヤル	KDDI フリーコール	ソフトバンクテレコム フリーコールGOLDプラン	フリーアクセス ひかりワイド
固定電話等 (県内)	区域内	8.925円	8.925円	8.925円	8.4円
	～20km	21円	21円	22.05円	
	～60km	31.5円	31.5円		
	60km超	42円	42円		
固定電話等 (県間)	～100km	21～63円	21～63円	85.05円	50.4円
	100km超	84円	84円		
携帯電話	ドコモ / イー・モバイル	136.5円	136.5円	85.05円	55.125円
	KDDI / ソフトバンク				
PHS	－	42～157.5円	52.5～84円	37.8～75.6円	31.5円～